

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

| 分野 | 景気の現状判断 | 業種・職種 | 判断の理由 | 追加説明及び具体的状況の説明 |
|-----------------------------|---------|----------------|--------|--|
| 家計 動向 関連 (北海道) | ◎ | 一般小売店〔土産〕（経営者） | 販売量の動き | ・3月でまん延防止等重点措置が全国的に解除されたことに加えて、春らしい陽気となったことで前年の2倍ほどの人出がみられ、売上もコロナ禍前の50%を上回る日がみられるところまでばん回している。4月の売上は前年比で261%、前々年比で441%、2019年比で25.3%となっている。 |
| | ○ | 商店街（代表者） | お客様の様子 | ・まん延防止等重点措置が解除されたことで徐々に人出が増え、回復基調に入ってきた。ただし、新規感染者数が高止まりしていることもあって、満足な購買状況にはなく、回復までには相当な時間が掛かりそうだ。そのようななか、経済回復を早期に実現しなければならないことから、感染症対策を万全にした上で4月28日からイベントを開催することになった。行政に頼るだけではなく、民間側がイベントを安全に実施する見本をみせていくことで、消費者の閉ざされた気持ちを明るくしていきたい。これからもそのようなイベントを多数実施していきたい。 |
| | ○ | 商店街（代表者） | 販売量の動き | ・りんごの出荷が増え始めた。気温上昇に伴って当社商材の出荷も増えている。 |
| | ○ | 一般小売店〔酒〕（経営者） | 販売量の動き | ・少しずつコロナ禍前の売上に近づいているが、まだまだ予断を許さない状況にある。 |
| | ○ | 百貨店（売場主任） | 来客数の動き | ・前月、前々月は週によって来客数の増えた週もみられたが、新型コロナウイルスの影響を受けていた。4月は新規感染者数が増えても、来客数にそれほど影響がみられなくなっており、前月や前々月と比べて来客数が安定している。 |
| | ○ | 百貨店（販売促進担当） | 来客数の動き | ・気温の上昇とともに、駅周辺の来街者、店舗の来客数が増加している。それに伴って買上客数、売上も増加傾向にある。 |
| | ○ | スーパー（店長） | それ以外 | ・新型コロナウイルスの感染状況による良しあしがみられる。3か月前はまん延防止等重点措置の適用で客足が大きく落ち込んだが、4月はまん延防止等重点措置が解除され、小康状態にあるため、景気がやや良くなっている。 |
| | ○ | スーパー（店長） | お客様の様子 | ・1月末～3月中旬までまん延防止等重点措置が適用されていたことを踏まえても、4月の客の消費金額は確実に増えてきている。コロナ禍前ほどではないが、衣料品の売上も上向きになっており、今後の政府の施策次第で一層の伸長も期待できる。 |
| | ○ | コンビニ（エリア担当） | お客様の様子 | ・客の購買の様子や行動している時間帯から、景気はやや持ち直している。 |
| | ○ | コンビニ（エリア担当） | 単価の動き | ・売上、客単価共に、前年、前々年を超えて推移しているため、景気は良くなってきている。 |
| | ○ | コンビニ（エリア担当） | 来客数の動き | ・まん延防止等重点措置が解除されたことで人の動きが若干回復している。 |
| | ○ | 衣料品専門店（店長） | 来客数の動き | ・購入金額が大きいわけではないが、来客数が前年比118%となるなど、客が戻ってきており、客単価の落ち込みをカバーしている。 |
| | ○ | 高級レストラン（スタッフ） | 来客数の動き | ・僅かではあるが、予約客などが増加しつつある。ただ、コロナ禍前の水準にはまだまだ及ばない。 |
| | ○ | 高級レストラン（スタッフ） | 来客数の動き | ・週末の来客数が増加傾向にある。特に桜が開花した週末の23～24日はゴールデンウィーク並みの来客数がみられた。新型コロナウイルスの新規感染者数は高止まりしているが、感染症対策を万全にしていることもあって、客も店も現状に慣れ始めてきている。 |
| | ○ | 旅行代理店（従業員） | 来客数の動き | ・まん延防止等重点措置が解除された後、航空機利用が増加している。特に春休みは家族連れや若い世代の動きが目立った。4月は年間でもビジネス客の動きが鈍る時期の1つであるため、大きな伸びはみられないが、新聞に旅行広告が復活したこともあり、観光需要の取り込みがようやく本格的になり始めている。 |
| | ○ | 旅行代理店（従業員） | 来客数の動き | ・新型コロナウイルスの新規感染者が高止まり状態にあるが、人流抑制策などが行われていないことから、少しずつ問合せが増えてきている。 |

| | | | |
|---|------------------------------|--------|---|
| ○ | 旅行代理店（従業員） | 販売量の動き | ・県民割などにより近場の観光需要については徐々に復調傾向にある。一方、遠方への観光需要については、幾分上向きではあるものの、いまだに低調である。特に都市部への観光需要については回復するような動きがみられない。 |
| ○ | タクシー運転手 | 販売量の動き | ・まん延防止等重点措置が解除され、人流が戻り始めていたが、当地において過去最大の新規感染者数を記録するなど、感染状況の高止まりが続いているため、現在は人流がストップしている。3か月前に比べると景気はやや良くなっているが、景気回復の実感をつかめない状態となっている。 |
| ○ | 観光名所（従業員） | 来客数の動き | ・利用客が前年の160%程度まで増えている。接客していても、3か月前は客がかしこまって過ごしていたが、現在は笑顔で過ごす様子もみられるなど、のびのびと楽しんでいる。もちろん感染症対策を取った上だが、出掛けやすい環境になっていると捉えている。 |
| ○ | 美容室（経営者） | 来客数の動き | ・気温の上昇とともに外出の動きが活発化しており、来客数も増加傾向になっている。それに伴い売上も増加している。 |
| ○ | その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員） | 来客数の動き | ・コロナ禍ではあるが、旅行の機運が高まっている。予約件数も前年と比較してかなり増加している。 |
| ○ | 住宅販売会社（経営者） | お客様の様子 | ・新型コロナウイルスの感染状況がなかなか収束しないにもかかわらず、当地においてはかなりの観光客が押し寄せてきている。これからゴールデンウィークを迎えて、ホテル、旅館、飲食店では相当な混雑が見込まれるなど、観光関連業界の景気はやや上向きとなっている。 |
| □ | 商店街（代表者） | 単価の動き | ・買上単価の2極化が進んでいる。生活必需品の単価が低下している一方で、趣味やし好品などの選択的分野では商材の単価が上昇している。 |
| □ | 商店街（代表者） | 来客数の動き | ・人流抑制策などの規制は解除されたが、当区域においては昼夜共に客足が依然として遠のいたままである。特に昼間は、期待していた旅行客の増加もほとんどみられない。地元客による乗合バスや駐車場の利用なども減少したままであり、物販店、飲食店、宿泊業にとって厳しい状況が続いている。 |
| □ | 一般小売店〔土産〕（経営者） | お客様の様子 | ・年末年始や年度末は人の移動が活発であり、卒業旅行などの動きもみられたが、4月は客の動きが緩慢になっている。団体での旅行もみられず、どうしても一服感が漂っている。道民割や県民割などを利用した近隣への旅行は活発に動いているが、飛行機を利用して移動するような旅行は余り動きがみられない。 |
| □ | 百貨店（マネージャー） | 来客数の動き | ・来客数の動きをみると、1月は前年比93%、2月は前年比89%、3月は前年比92%、4月が30日現在で前年比92%となっており、3か月前と変わらずに推移している。ただし、買上客数の動きをみると、1月は前年比103%、2月が前年比96%、3月が前年比97%、4月が30日現在で前年比107%と上向き傾向になりつつあるため、回復傾向と考えることもできる。 |
| □ | スーパー（企画担当） | 販売量の動き | ・経済活動が活発化しているため、景気は上向きにみえるが、商品価格の高騰などにより、客の買上点数が減少している。節約志向が強まっているため、景気はさほど変わっていない。 |
| □ | 家電量販店（店員） | 単価の動き | ・4月に入りメーカーの小物商材、部品が値上がりしていることで、レジ周り商材の買い控えにつながっている。また、当地の新型コロナウイルス新規感染者数が多いことが影響しているのか、客足が鈍っている。 |
| □ | 自動車備品販売店（店長） | 販売量の動き | ・新型コロナウイルスの感染対策が徐々に緩和されてきているが、売上は3か月前と同じような実績となっており、変化はみられない。むしろ若干悪くなっている雰囲気もうかがえる。 |

| | | | |
|---|----------------------------|--------|---|
| □ | その他専門店 [ガソリンスタンド] (経営者) | 販売量の動き | ・石油製品価格が高止まりしていることで販売量が減少している。 |
| □ | 高級レストラン (スタッフ) | 販売量の動き | ・売上は前年並みであり、3年前の60%ほどにとどまっている。昼は例年を超えそうになっているが、夜の客が少ない。知り合いの低価格洋食店は客足が良くて活況のようだが、高級店は客足が戻ってこない。また、あるホテルでは宿泊客が戻っていることで、人手の足りなかった調理スタッフの募集を始めたようだ。飲食業界全体的には客が増えつつあるが、症状の出にくい20~30歳代の客への接客について正直なところ心配な面もある。 |
| □ | スナック (経営者) | 来客数の動き | ・まん延防止等重点措置が解除され、平常を取り戻しているが、客足は伸び悩んでいる。 |
| □ | 旅行代理店 (従業員) | 販売量の動き | ・新型コロナウイルスの感染状況が余り変わらないことに加えて、ウクライナ情勢によって随所に影響が出ており、景気が上向いてこない。行政の指針も期待できるものが何もない。 |
| □ | タクシー運転手 | 来客数の動き | ・例年4月になり、暖かくなってくると雪のあった時期と比べてタクシーの利用客が大きく減少することになる。今年は緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が解除されているため、タクシー1台当たりの売上は前年から約15%ほどのプラスとなったが、乗務員不足でタクシーの稼働が15%ほどのマイナスとなったため、会社の売上は前年並みであった。コロナ禍前との比較では30%のマイナスであり、なかなか以前の状況に戻ってこない。 |
| □ | タクシー運転手 | 来客数の動き | ・3月21日にまん延防止等重点措置が解除されたが、いまだに動きらしい動きがみられず、苦勞している。この先も今のような状況が続くとみられるため、客の動きを注視していきたい。 |
| □ | 美容室 (経営者) | 販売量の動き | ・2~3月と比べれば売上は良くなっているが、前年の数字をクリアできていない。 |
| □ | 美容室 (経営者) | それ以外 | ・新型コロナウイルス新規感染者数が増えて、まん延防止等重点措置が再び適用されることになれば、売上は減少することになる。また、最低賃金の引上げに伴って全体的な値上げも見込まれる。ロシアのウクライナ侵攻が長引くことで値上げが一層進むことも懸念される。これらのことから客足にかなりの影響が出てくることを懸念している。 |
| □ | 住宅販売会社 (経営者) | お客様の様子 | ・分譲マンションのモデルルームを来訪する最近の客は、その多くが金に余裕のある客であり、分譲マンションの先高観の影響もあって、気に入った物件さえあれば、購入に至るまでの判断が早い。 |
| ▲ | 商店街 (代表者) | お客様の様子 | ・客の反応をみると、景気が悪いような雰囲気です話していることが多い。 |
| ▲ | スーパー (企画担当) | 来客数の動き | ・販売価格の上昇に伴って、客単価が上昇している。その一方で、来客数は明らかに減少傾向にあることから、客の買物頻度が低下していることがうかがえる。 |
| ▲ | スーパー (役員) | お客様の様子 | ・まん延防止等重点措置の解除後、週末を中心に飲食店などの駐車場が混雑している。それに伴ってスーパーマーケットにおける内食需要での買物が減少している。 |
| ▲ | スーパー (従業員) | 来客数の動き | ・前年と比べて、来客数が減少している。食料品の値上げに伴って買い控え傾向が強まっている。客単価は同水準にあるものの、来店頻度の低下、買上点数の減少がみられており、今後もこうした傾向が継続することになる。 |
| ▲ | 乗用車販売店 (経営者) | 販売量の動き | ・月を追うごとに新車の供給状況が悪くなっており、長納期が常態化している。このため、新車は売上が立たず、中古車は在庫の必要量を確保できず、収益確保が厳しい状況となっている。 |
| ▲ | 乗用車販売店 (従業員) | 販売量の動き | ・新型コロナウイルスの影響によって海外でロックダウンが生じていることで、部品が計画どおりに入っていないため、納品遅れが生じている。1~2月と比べると4月の売上は奮わず、景気は余り良くなかった。 |

| | | | | |
|-------------------------|---|----------------------------|------------|--|
| | ▲ | 乗用車販売店 (従業員) | 販売量の動き | ・3か月前と比べて景気はやや悪くなっている。例年の同時期と比べても悪くなっている。 |
| | ▲ | その他専門店 [造花] (店長) | お客様の様子 | ・職种的に新規感染者数の増減による影響を受ける傾向がある。現在は必要なものだけを最低限購入する状況となっており、売上は1割程度落ち込んでいる。 |
| | ▲ | タクシー運転手 | 来客数の動き | ・新型コロナウイルス新規感染者について、1度は減少傾向にあったものの、再び増加傾向がみられることから、予約キャンセルが生じている。客の話を聞くと、外出や旅行、出張なども控えているとのことである。 |
| | ▲ | 通信会社 (企画担当) | 単価の動き | ・通信端末の販売において、本来は2万円の割引が上限であるが、旧端末は適用外のため、2～3年前の端末と通信契約をセットにした商材の価格競争が激しくなっている。販売量が多いものの、流出数がそれを上回っており、販促支援費も掛かるため、体力競争になっている。特に都市圏を中心とした量販店、大型ショッピングモールにおける出張販売でそうした動きが顕著になっている。 |
| | × | 百貨店 (営業販促担当) | 来客数の動き | ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、年配客だけでなくファミリー層の来店も減ってきた。来客数が落ち込んでいることでウエイトの大きい食品の売上が低迷している。 |
| | × | タクシー運転手 | 販売量の動き | ・当地において新型コロナウイルス新規感染者が連日過去最高を更新し続けていることから、夜間の人出が皆無に近い状況となっている。また、本州からの観光客が訪れているものの、タクシー利用にはつながっていない。 |
| 企業 動向 関連 (北海道) | ◎ | — | — | — |
| | ○ | 輸送業 (営業担当) | 受注量や販売量の動き | ・本州向けの生乳は微減傾向で推移しているものの、バター、粉乳の在庫量は依然として多い。また、飲料容器関連の荷動きも出始めている。本州における雑貨のトレーラー輸送も伸びている。これらのことから、景気はやや良くなっている。 |
| | ○ | 通信業 (営業担当) | 受注量や販売量の動き | ・新型コロナウイルスにウクライナ情勢と不確定要素は多いが、3か月前と比較すると、新型コロナウイルスからの回復需要や出口戦略に焦点を当てた新たな先行投資による案件など、案件数が増加している。 |
| | ○ | 司法書士 | 取引先の様子 | ・新型コロナウイルスやロシアのウクライナ侵攻の影響による物価上昇、流通遅延が景気に大きく影響しているものの、春季に入ってから例年どおりに小型の戸建て住宅の販売が堅調に推移している。また、まん延防止等重点措置の解除により、観光バスやホテル業の業績もやや回復していることもプラスである。 |
| | ○ | その他サービス業 [建設機械レンタル] (総務担当) | 受注量や販売量の動き | ・4月の売上は前年を若干下回っているが、グループ会社の状況やその他市況など、外部環境は決して悪くないことから、全体的には回復傾向にある。 |
| | □ | 食料品製造業 (従業員) | 受注量や販売量の動き | ・売上が3か月前と変わっていない。 |
| | □ | 食料品製造業 (従業員) | 受注量や販売量の動き | ・4月の販売量は前年比マイナス17%だったが、3か月前の販売量は前年比マイナス21%だったため、景気は変わっていない。 |
| | □ | 建設業 (従業員) | 受注量や販売量の動き | ・官民共に案件数が少ない。特に民間の動きが悪い。 |
| | □ | 建設業 (役員) | 受注量や販売量の動き | ・新年度がスタートしたなか、現時点での受注状況は官民共に順調であり、前年度後半から続く良好な業績を変わらずに維持できている。 |
| | □ | 金融業 (従業員) | 取引先の様子 | ・まん延防止等重点措置の解除に伴うマインドの改善は感じられるが、エネルギー価格を中心とした物価上昇が個人消費のおもしとなっている。住宅投資にも減速がみられる。これらのことから、道内景気はコロナ禍の影響が大きかった3か月前と比べて変わらない。 |
| | □ | 司法書士 | 取引先の様子 | ・ロシアのウクライナ侵略や新型コロナウイルスの影響により、あらゆる物の価格が上昇しており、生活しづらい環境になっている。不動産に対する投資や住宅取得の動きも落ち込んでおり、景気回復が遅れている。 |

| | | | | |
|-------|---|---------------------------|--------------|--|
| | □ | その他サービス業 [ソフトウェア開発] (経営者) | 受注量や販売量の動き | ・受注量などに具体的な影響が出てきているわけではないが、先行き不安の話を随分と聞くようになってきた。 |
| | □ | その他非製造業 [鋼材卸売] (従業員) | 受注量や販売量の動き | ・3月と比べても状況はほとんど変わっていない。 |
| | ▲ | 家具製造業 (経営者) | 受注価格や販売価格の動き | ・ウクライナ情勢の影響によって、景気はやや悪くなっている。 |
| | ▲ | 輸送業 (支店長) | それ以外 | ・道内における輸送量は伸びているが、当社の場合、売上面でトラック輸送、船輸送のウエイトが高いことから、燃料価格の上昇が利益減少の要因となりつつある。 |
| | × | — | — | — |
| 雇用関連 | ◎ | — | — | — |
| (北海道) | ○ | 求人情報誌製作会社 (編集者) | 雇用形態の様子 | ・道内の新型コロナウイルス新規感染者数が思ったほど減ってこない状況にあるが、採用活動は活発化している。正社員の求人数は増加傾向にあり、中途だけでなく、新卒採用も徐々に増えている。また、新型コロナウイルスの影響を直接受けている飲食業界や宿泊業界からの求人数も増加傾向にある。ただ、求職者の動きが弱く、採用に至らないケースが増えている。 |
| | ○ | 求人情報誌製作会社 (編集者) | 求人数の動き | ・3か月前と比較すると、全業種で同等又は同等以上の求人募集が行われている。観光客の減少や消費マインドの低下で影響を受けている飲食業、宿泊業、小売業などでも微増となっている。 |
| | ○ | 職業安定所 (職員) | 求人数の動き | ・当地における3月の有効求人倍率は0.91倍であり、3か月前との比較では0.02ポイント上回った。 |
| | ○ | 学校 [大学] (就職担当) | 求人数の動き | ・2023年新卒者の採用に向けて、各企業や人材会社などの動きが活発になっている。飲食業の採用意欲は低調だが、それ以外のどの業界も新卒採用への意欲が高まっている。 |
| | □ | 人材派遣会社 (社員) | 求人数の動き | ・業界によるばらつきはあるものの、求人意欲は変わらず旺盛である。販売系の求人数が現状維持で推移しているほか、営業職の求人ニーズはどの業界でも強くなっている。ただし、人材側のスキルが求人ニーズを満たしておらず、なかなか採用に至らないケースが多い。今後、求職者と求人数のギャップが広がっていくことを心配している。 |
| | □ | 求人情報誌製作会社 (編集者) | 求人数の動き | ・まん延防止等重点措置の解除直後こそ、求人数に若干の伸びがみられたものの、新規感染者数の急激な増加による自粛心理もあってか、いまだに求人数が足踏み状態で推移している。 |
| | □ | 求人情報誌製作会社 (編集者) | 求人数の動き | ・例年どおりではあるが、一次産業、建設業などで春の求人数増加の動きがみられた。警備・清掃業も好調である。一方、飲食業界からの申込は低調である。新型コロナウイルスの影響で明暗が分かれている。 |
| | □ | 職業安定所 (職員) | 求職者数の動き | ・3月の新規求職者数は前年から0.6%の減少、新規求人数は前年から0.7%の増加となっており、これまでと状況が余り変わっていない。 |
| | ▲ | 職業安定所 (職員) | それ以外 | ・日常生活に必要な様々な商材や光熱費が値上がりしていることがマイナス要因となっている。 |
| | × | — | — | — |